

である。

此の實驗では、血清培地の方が多少劣る様であるが、しかし著明の差は無い。血清培地は凝固水が豊富に出る故、血清凝固器の中を、濕潤にしなくともよい。又屠殺場から血液をもつて來る場合、往々にして溶血を起している事もあるが、之等のものでも、清澄な血清に較べて、何等差異が無い。又血清を分離する場合に、血液が多少混つても、差異は全く見られない。この血清培地を作る場合に、血清が餘り古くなると、成績が劣つて來る故、なるべく新しいものを用いた方がよい。余等は、屠殺場からもつて來た血液を一日氷室に入れて血清を分離し、翌日使用する様にした。尙此の培地での缺點は、雜菌の入り易い點である。この血清培地は聚落が發育すると、其の後の發育は猛烈であつて、岡片倉培地を凌駕する。余等の用いた血清は、豚、牛であるが、其の間に何等の差異も無い。

IV. 結 論

1) 岡片倉培地に於ては、鶏卵液と基汁との混合の割合は 5:4 でも、培養上、本來の岡片倉培地と全然差が無い。

2) 3%の寒天 300cc に對して、岡片倉培地に於ける、基汁 100cc に於ける各要素を同量加える。即ち第一磷酸加里 0.5g, 第二磷酸曹達 0.5g, 味の素 1.0g, を加えて、更にグリセリンを 6cc 加えて溶解し、滅菌試験管 4cc 宛分注して斜面

とし、更に其の上に岡片倉培地の基汁と鶏卵液との混合液を 2cc 宛、重疊して血清凝固器で固めた培地は、岡片倉培地に比して、何等遜色が無い。此の培地では從來の鶏卵培地に比して鶏卵の量を 1/3 量に節約する事が出来る。

3) 牛、豚の血清 100cc に對して、第一磷酸加里 0.1g, 全卵 10cc グリセリン 2.0cc 2%マラヒット線溶液 0.4cc を加えて、血清凝固器で 90°C, 1 時間で固めた培地は、培養上、岡片倉培地と殆んど差が無い。此の培地では從來の鶏卵培地に比して、鶏卵の量を 1/7 量に節約する事が出来る。

文 献

- 1) Bruno Albrecht: Zbl. f. Bakt., I Abt., Orig., 147: 1941.
- 2) 占部、山田: 日本醫學及び健康保險、3249: 12, 昭和 16.
- 3) 増田、物江: 軍醫團雜誌、348: 586, 昭和 17.
- 4) 岡、片倉、石川: 東北醫學雜誌、21: 692, 昭和 12.
- 5) 上坂、友田: 日本醫學及び健康保險、3311: 2551, 昭和 17.
- 6) Hesse: Handbuch d. Pathogen mikroorganismen von Kolle, Kraus, Wassermann, Bd. IX: 1929.
- 7) 伊 藤: 結核、12: 699, 昭和 9.
- 8) Kirchner: Zbl. f. Bakt., I Abt., Orig., 124: 403, 1932.

<p>(正)</p> <p>結核24卷第3號中下記の箇所を訂正する</p> <p>P.20左 I 實驗方法 3 行目</p> <p> " 右第 1 表中</p> <p>P.21 第 2 表經過週の(2)</p> <p>P.24 左 4 行目</p>	<p>(誤)</p> <p>(正)</p> <p>原理—————原液</p> <p>VI 週—————VII 週</p> <p>VII 週—————XV 週</p> <p>VII —————XVII</p> <p>實驗的結核菌——實驗的結核症</p>
--	---